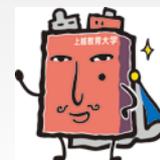


なぜ，上越教育大学は クラウドサービスでidPを運用したのか

上越教育大学
情報メディア教育支援センター
大森康正



「学認 (GakuNin)」をどのように利用しているか

- 利用開始 2014年7月
- 第1期(2014年7月～2016年2月)
 - idPは学内に設置 (ID管理はLISM, 認証はSecioss Access Manager Community Edition)
- 第2期(2016年3月～)
 - idPは学外に設置 (認証はSeciossLink for Education, ID管理 (LISM)は学内に設置してID同期を実施)
- 利用しているSP(2016年5月現在)
 - CiNii, NII-REO, ScienceDirect, researchmapなど15サービス
 - 学内リソースとして, 図書館システムなど6サービス

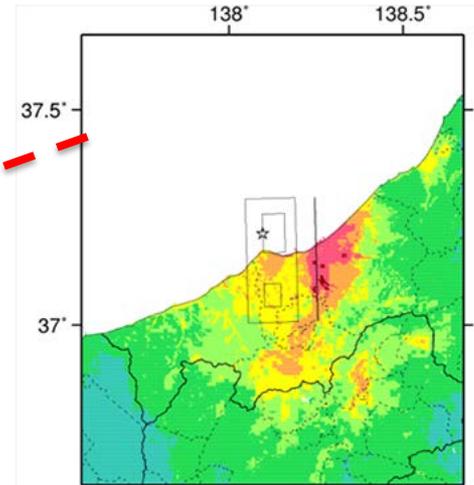
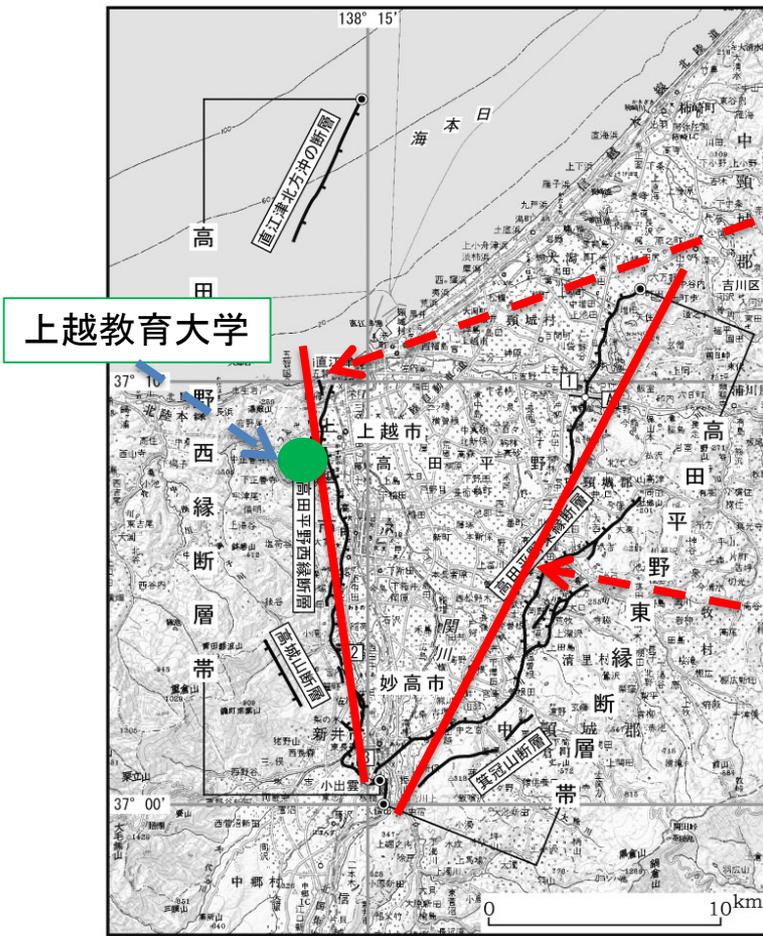


なぜクラウドへ移行したのか

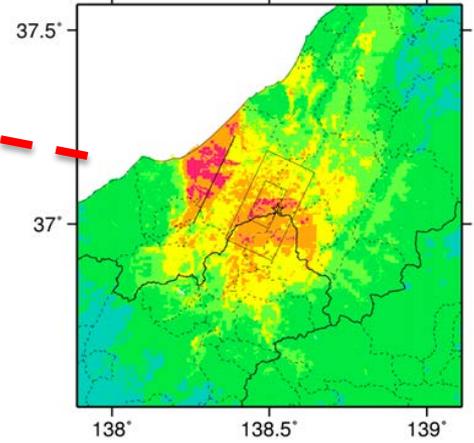
- 大規模災害への備え
- 日頃の管理業務に対する負担軽減



大規模災害への備え



M7.3で震度6強から震度7が予想されている



M7.2で震度6強が予想されている

地震調査研究推進本部 高田平野断層帯 (補助線等を追加している)
http://www.jishin.go.jp/regional_seismicity/rs_katsudanso/f102_takada-heiya/ (平成28年5月25日に利用)



大規模災害への備え

- 2014年9月 情報システム企画運用委員会において、次期キャンパス情報システムの方針として「大規模災害への対応」「モバイル端末への対応」などが決定
 - 電子メール(Google Apps for Education), LMS(Google Classroom)などの教育・研究関連サービス等のクラウド化
 - Google Apps Engineを活用して安否確認システムを構築
 - 災害時にいち早く、教育研究環境を復旧させることを念頭において、idPのクラウド化を決定



日頃の管理業務に対する負担軽減

- 情報メディア教育支援センターの運営
 - センター長, センター教員(4名)は共に併任
 - 事務職員(3名), 業務支援員(1名:外部委託)

- 課題
 - パソコン等の管理・運用に関しては豊富な知識を持つ教職員は多い, しかしながらネットワークやサーバ等に精通した教職員は少ない
 - 日常業務に忙殺されるなか, **脆弱性への敏速な対応**が課題



第2期のシステム構成等

- Sinetノードへのアクセス線を, 100Mから1Gへ変更
- ID管理は学内に設置
 - ID管理システム: LISM
 - ディレクトリーサービス: OpenLADP
- 認証(idP)はクラウドへ移行
 - 認証: SeciossLink for Education
 - 学内のOpenLDAPとID同期



クラウドへ移行した際に気がついたことなど

- 移行前の反応
 - － 決定した際、学内からの反発が予想されたが、殆ど無かった

- 移行時
 - － 第1期と第2期の納入業者・運用支援業者が同一だった
 - － LDAPはかなり前から運用していたが、LDAPユーザ情報、基本構成を変更せずセシオス側仕様にあわせて登録できるよう調整
 - － メールアドレスのドメインが、学生はmyjuen.jp、教職員はjuen.ac.jpと異なることから認証画面は調整をしてもらった
 - － センター管理外の学内システムにおいて、スムーズに移行できなかったシステムがあった。
 - 第2期システム稼働後、第1期のシステムを学認から切り離し、しばらく学内リソース専用として平行稼働させた

- 移行後の反応
 - － これも、特に大きな反応はなかった



ご清聴ありがとうございました。

